

ひまわり訪問看護ステーション 矢本サテライト事業所

症 例 概 要 利用者①氏名：Y・S様（10代・女性）

利用期間：平成22年5月～現在

経過：脳性麻痺による痙直型四肢麻痺。H22. 5月、支援学校小学部4年生の時から介入。運動機能障害が見られ、定頸不十分。全身の反り返りが強い。移動は座位保持装置やバギーを使用し、移乗は抱っこ。脊柱や関節の変形、拘縮などを予防しつつ、全身状態は落ち着いて経過している。

利用者②氏名：K・M様（10代・男性）

利用期間：平成28年7月～現在

経過：出血後水頭症による痙直型四肢麻痺。H28. 7月、支援学校小学部5年生の時から介入。運動機能障害が見られ、頭頸部、体幹の筋緊張は低く、定頸不十分。移動は座位保持装置やバギーを使用し、移乗は抱っこ。介入当初は体調に波もあったが、成長と共に徐々に軽減してきている。

内 容

Y・Sさん、K・Mさんともに、小学部の頃から訪問リハビリで介入しています。全身的に重度の障害を抱えており、小学部の頃は体調に波があり、訪問がキャンセルになることも珍しくありませんでした。リハビリを継続し成長と共に徐々に体力もつき、現在の全身状態は概ね落ち着いています。毎日楽しく支援学校や在宅障がい者多機能支援施設に通われています。

Y・Sさん、K・Mさん、お二方ともスタッフの訪問を楽しみに、温かい笑顔で迎えて下さり、ご家族と共にお二人の成長を感じながら、関わりを継続しています。両家ともとても前向きなご家族ですが、体調の兼ね合いやバリアフリーの面などから、屋外でのイベントへの参加が難しい事も多くありました。

障害者に海水浴を体験してもらう石巻ユニバーサルビーチへの参加を相談された際は、両家族とも参加したい気持ちはあるが、重度の障害のある我が子が海水浴をできるのかと大きな不安も抱えていました。しかし、海に入れるチャンスがあるなら入れたいとの希望から、前向きに検討していく事となりました。

当ステーションスタッフに企画の主催や当日ボランティアとして携わる者がおり、主催側と訪問スタッフが連携しながら、情報共有・準備等で相互にフォローできる体制を整えました。訪問リハビリでは、当日までの体調管理と、水上車いすに安楽に乗れるよう、身体機能の維持を目的に介入を継続していました。

当日、水上車いすを使用し、多くのボランティアとともに初めて海水浴を経験した瞬間の笑顔はとても輝いており、素敵でした。Y・Sさんの母親は「どれくらい長生きできるかわからない子ですが、皆さんの優しさを感じながらも楽しみ、何事もない日常を送れる事に感謝しています」と言葉を綴ってくれました。両家族とも、我が子が海に入れたことに感動し、とても楽しかったと感想を頂いています。スタッフ側もイベントを通じて、障がいを抱えていても、多くの方々の支えや環境によってバリアを一つ一つ外すことができ、海水浴を楽しめるという事を実感できました。

Y・Sさん、K・Mさんのご家族も、来年もまた参加したいと非常に積極的です。また、他のイベントにも参加してみたいとのご希望も聞かれており、周囲との関わりや活動の幅が広がることで、楽しみも増え、生活の質の向上にも繋がっていることを感じています。

来年も一緒に海に入る事を目指すと共に、人生を楽しく、豊かに過ごすことのお手伝いを出来るよう、今後もリハビリを継続したいと思います。